

## 序

## 章

一 習合研究と本書の視座	3
二 本書の概要	6

第一章 神仏習合と儀礼空間	15
---------------	----

第一節 神仏習合の基本形態	17
---------------	----

第二節 社寺行幸と天皇の儀礼空間	22
------------------	----

はじめに	22
------	----

一 賀茂行幸——神前に立たざる天皇——	25
---------------------	----

二 行幸と御幸の相違点	31
-------------	----

三 古代の寺院行幸——地域不入の天皇から拝跪する天皇へ——	35
-------------------------------	----

四 中世最後の神社行幸——後醍醐天皇の例——	42
------------------------	----

まとめ——王權と神祇の関係——	46
-----------------	----

第三節 神宮寺の神祇奉斎——神仏習合の源流を求めて——	51
はじめに	51

一 多度神宮寺の「神御像」	52
---------------	----

## 二 松尾神宮寺の旧神像

三 热田神宮寺の神像図と神祇

四 日吉神宮寺の「影向山王」

五 石清水・護国寺の「大菩薩御体」

おわりに

## 第四節 仏教空間における神祇

はじめに

- 一 東大寺における神祇関係
- 二 神護寺における神祇奉斎
- 三 長谷寺の神祇奉斎
- 四 天台の神祇奉斎と神祇勧請

## 第二章 神前読経と經典

### 第一節 大般若經の伝播と神仏習合

- 一 日本における大般若經の受容
- 二 神祇と大般若經——道行願經の出現——
- 三 神祇法樂經としての大般若經——神宮寺と大般若經——
- 四 神祇と大般若經

まとめ

## 第二節 中世における神前読経の場

はじめに

一 伊勢神宮における神前読経

二 賀茂社の神前読経

三 春日社の神前読経

四 日吉社の神前読経

まとめ

### 第三節 一宮・惣社における仏事と大般若經

はじめに

一 一宮・惣社における仏事

二 一宮・惣社と大般若經

三 惣社の經藏

まとめ

## 第三章 神職系図の研究

### 第一節 伊勢神宮の神主系図

はじめに

一 仏教の接近

二 出家神主の出現

### 三 受容の諸相

四 天照大神と本地仏  
おわりに

### 第二節 『津守氏古系図』の研究

はじめに

一 『津守氏古系図』の諸本とその検討

二 津守氏の出家者

三 出家神主の出現

四 退下後の出家神主

五 輩出する僧尼たち

まとめ——出家を支えたもの——

### 第三節 上賀茂神社系図の研究

はじめに

一 『賀茂社家系図』と『社務補任記』の史料批判

二 聖神寺の建立

三 習合の深化と展開

四 「入道神主」の出現と堂塔の建立

まとめ——近世の継承

### 第四節 若狭彦神社社務系図の研究

はじめに :

一 習合の実態 .....

二 神主の出家——十二代景継にみる—— .....

三 光景とその周辺 .....

まとめ .....

## 第五節 宇佐八幡宮の神主系図 .....

はじめに .....

一 奈良時代の宇佐宮 .....

二 宇佐宮の系図史料 .....

三 宇佐宮の仏教 .....

四 平安時代の仏教受容者 .....

五 造像と結縁者たち .....

六 仏事法会の始修 .....

七 鎌倉時代の出家者たちと帰依者 .....

まとめ .....

## 第四章 洛中洛外の神仏習合 .....

第一節 鴨社の神仏習合 .....

はじめに .....

一 賀茂神宮寺成立の背景

二 岡本堂をめぐつて

三 神宮寺の成立と発展

四 近世の神仏習合

五 神宮寺の終焉

第二節 祇園社の成立と觀慶寺

はじめに

一 祇園社の当初形態

二 「神殿」と「堂」の並存

三 祇園社（觀慶寺）の天台化

四 觀慶寺の性格と位置

第三節 天龍寺の鎮守社靈庇廟について

はじめに

一 発掘調査による所見

二 靈庇廟創建とその周辺

三 後醍醐天皇・夢窓国師・足利尊氏と靈庇廟

史料編

371

一 神仏習合年表

373

二 大般若經年表

375